

## 「悔しさ乗り越え勝利へ」

横浜市立高田小学校6年

石川 妃悠



「ストライク、バッターアウト。ゲームセット。」四年生の私は、ラストバッターで三振してチームが負けてしまいました。私は悔しくて、そして、チームメイトに申し訳なくて、帰る時もずっと泣いていました。チームメイトは「負けたのはみんなのせいだよ。」と励ましてくれました。三振したのは自分だ。」と自己嫌悪に落ち入りました。あんなに大好きだった野球が初めて嫌いになりました。

私が野球を始めたのは三年生の時。小さい頃から球技好きだった私をチームのコーチが誘ってくれました。初めて手に取ったボール、グローブ、バット。私は、すぐに野球のとりこになりました。また、速い球を打ったり、

捕ったりしている先輩達が格好よくて私の憧れでした。その時、後輩達から憧れられる先輩になれたら格好いいなと思いました。厳しい練習にも「上手になれるから。」と進んで参加し、最後までやり通すことが出来ました。そして、毎週練習を積み重ねて速い球を打ったり、捕ったり出来るようになると、野球が更に好きになりました。そして、あの試合の日です。その試合は、接戦で最終回、私のチームの攻撃、一点差で負けていました。二死二・三塁、いよいよ私の番。正直自信はありませんでした。一球目ストライク。セカンドランナーの「がんばれ。」という眼差しがプレッシャーにおしつぶされそうな気持ち奮い立たせました。せっかく前のバッターが自分へつないでくれたのだから絶対に悔いの残らない打席にしようと思えました。

二球目はボール。大きく深呼吸をして三球目。フルスイング。空振り。ついに追い込まれ不安はしだいに大きくなっていきました。

四球目。私は肩を落としました。力いっぱい振ったバットは空を切りました。相手チームの喜ぶ声が大きく聞こえた時、涙が出ました。

それから、しばらくバットもグローブも手にとることは出来ませんでした。チームメイトにも顔むけが出来ず、

練習にも行きたくない日々が続きました。でもチームメイトが必死に練習している姿を見て「このままだと、もっと迷惑をかけてしまう。」と思い練習に戻りました。チームメイトは、何もなかったかのように私を温かく受け入れてくれました。その時、「このチームの一員でよかったです。」と心の底から思いました。

野球はチームでやる団体競技です。チームがまとまればまとまるほど強い。全員が「勝とう。」と思わなければ絶対に勝てません。仲間と団結し協力することで勝利が生まれます。不可能だったことも練習すれば可能になる。私はこのことを野球というスポーツから学びました。辛いことも悲しいことも楽しいことも嬉しいことも共に味わった仲間を忘れずに一歩ずつ歩んでいきます。